

日本臨床麻酔学会第44回大会 ランチョンセミナー 14 (LS14)

Maruishi
Pharmaceutical
Co., Ltd.

信頼と合意

ランチョンセミナー 14

日時

2024年11月22日 (金)

12:30 ~ 13:20

会場

第8会場

京王プラザホテル 本館 42F 高尾
〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1

※現地開催 整理券 当日配布

配布場所：大会HP公開予定

座長

堤 保夫 先生

広島大学大学院 医系科学研究科麻酔蘇生学 教授

「周術期を科学する：
臨床・教育・研究のはざまを考える」

演者

内田 篤治郎 先生

東京科学大学大学院 医歯学総合研究科
心肺統御麻酔学分野 教授

共催：日本臨床麻酔学会第44回大会 / 丸石製薬株式会社

日本臨床麻酔学会第44回大会 ランチョンセミナー 14

Maruishi
Pharmaceutical
Co., Ltd.

信 頼 と 合 意

「周術期を科学する：臨床・教育・研究のはざままで考える」

本邦における学術的なアクティビティについて、多くの議論があるが、科学的なチャレンジに対する興味が重要であることには論をまたないであろう。周術期を科学するという視点から、私たちの取り組みについて紹介したい。

一つめには、硬膜外麻酔の教育の際に CT の三次元的な画像解析を活用した取り組みについて取り上げたい。他の領域で進んだ技術革新と、我々の領域における日常的な課題を結び付け、新しい方法論につなげる流れを感じられる一例として紹介する。

二つめには当院で開始した PACU (麻酔後ケアユニット) について紹介する。欧米で広く普及している PACU は、本邦では短時間作用性の薬剤の普及に伴い、その価値が過小評価されがちであったが、いざ導入してみると、術後の回復をめぐる患者ベースで考えた場合に、実は時間を要する側面があり、しかも術後に特有なノウハウでの対応が必要になるという点で、PACU は診療上の貢献につながる利点が多いことを実感している。これをアセスメントによる可視化で表現し、質的な改善を目指していく動きにつなげていく一例として紹介する。

三つめは非接触型の呼吸モニターの開発を取り上げる。気管挿管された患者における呼吸のモニタリングとしては、カプノグラフィが代表的だが、非挿管患者における呼吸のモニタリングでは方法論が確立していない。目視による呼吸運動の観察は、医療者にとっての基本の一つであるが、深度カメラ等を用いることで、自動計測が可能となるのでは、というアイデアから展開した研究を紹介する。

科学的な新規課題の創出には、臨床上の課題と技術的な進歩からくる提案の間での関連付けがしばしば不可欠であり、そのヒントは実は身近なところにも潜んでいる - このセッションが、そんな認識につながればと願う次第である。

内田 篤治郎 先生